20241229　朝礼拝　詩編 85 編 9～14 節

「正義と平和を願って」

遠い子どもの頃の記憶に、妹との口喧嘩を思い出します。だいたい私の方が勝つことが多かった口喧嘩です。でも、不思議と口喧嘩に勝ってすっきりした思い出はありません。言い負かすまでは、何と言いますか、エキサイトして、だんだんと勝利に近づいていく、いわゆる論破に至るまでの高揚感があるのですが、いざ言い負かしてしまうと、後に残るのは、何とも言えないバツの悪さ、後味の悪さでした。自分の意見が押し通ったことの喜びとか、達成感と言ったものは無かったですね。大人になって、とくに幼稚園の働きの中で、行政や関係機関との交渉とかいう場面では、幼稚園の実益実害に繋がるものですから、そんな情緒的なことは言ってられなくて、多弁を弄して論破説得することはあります。幼稚園の利益が守られたなら、それは嬉しいことなので、素直にホッと一安心します。でも、今でも感情に任せた口喧嘩の場面では、すっきり気分で勝ち誇れたことは、多分ないと思います。たとえ、私に正義があったとしても、私の考える平和や平穏に必要な衝突だとしても、その結果には必ず痛みとシコリが残るんじゃないでしょうか。勝っても負けても、私にも相手にも、清々しい勝利はあり得ないと思います。

最近、面白い風刺画を見つけました。アラビア数字の 9 の字が地面に書かれていて、その 9 の字を挟んで 2 人の人物が向かい合って立っている、そんな風刺画です。正面から 9 の字を見ている人物は「これは 9 という数字だ」と主張しています。しかし、向かい合っている、もう一人の人物は「何を言っている、これは 6 だ」と声を荒げています。そして、そんな絵面の下に一言「あなたが正しいからと言って、私が間違っているわけではない」と添えられていました。非常に簡単で分かり易く、立場が違えば正しさも異なる、ということを表している風刺画であると思いました。

あと、向かい合っていることによる意見の相違についてもう一点。これは養老孟司さんという解剖学者の言葉ですが、「毎回、向かい合って食事をしている夫婦は気を付けた方が良い。それは、仲睦まじい食卓に見えて、その実、2 人は全く正反対の景色を見ながら食事をしているのだから」と。確かに、夫は妻の顔を視界に入れながら窓際に揺れる木の枝を見ていて、逆に妻は夫の背後にあるテレビに映る海の映像を見ている、なんてことは容易に想像できます。だから、時には居酒屋のカウンター席みたいに隣に並んで食事をすると良いかも知れません。

要するに、私たちは割と簡単に立場を違えてしまう。立場が違うからモノの見方や捉え方が違ってきてしまう。そして、その結果として、意見が違ってしまう、正しいことが違ってしまう、正義が異なってしまう、ということになってしまう。今まさに、この状況にしても、気を付けないと会衆席を見ている私と、講壇を見ている皆さまとは、容易く正義が異なってくるかも知れない。だから、そういう意味でも、たまには私も会衆席に座って礼拝したいなぁって思います。

「なんで神様なんて信じているの？」とか「宗教や信仰とか面倒くさくない？」とか。耳の痛い言説が巷にはあったりしますが、神様を信じる意味、宗教や信仰を受け入れる価値の、その一つは、少なくとも人間よりも高いところにいらっしゃる方を、この地上から、同じ立場から見上げることで、視線の先を合わせることなんじゃないかと思います。人間同士では、和解の食卓を囲むという所作それ自体にさえ、立場の違いを内包してしまう。向かい合うという動作によって、どうしようもなく生じてしまう視界の不一致、見える景色の差異がある。だから、一緒に神様の方を向きましょうよ、と。色んな立場、色んな考え、色んな主張があっても、とりあえず、神様の方を向くということで、同じ景色を見てみようじゃないですか、と。

・・・なんてことを言うと、「いやいや、そんな神様とか、宗教とかあるから、戦争だって起こっているんでしょ」とツッコミが入りそうですが、いや、確実に入ってきますが。宗教衝突の原因は、

はっきりしています。それは、人が、自ら作り出した宗教を神にしてしまっているから、宗教同士で喧嘩してしまうのです。宗教自体は、人の作ったものです。儀礼、戒律、奉仕、献身などなど。それらは、人が良かれと思って構築した作品に過ぎません。あるいは、道筋ですね。本当に大事なのは、その作品が何を指し示しているのか。その道筋がどこに続いているか。という、視線を向けるべき先です。しかし、現実は、多くの場合、手元にある作品にばかり気を取られ、歩むべき道筋のみに固執しているという状況です。だから、自分の持っている作品とは異なる作品に対して嫌悪感を示し、自分の選択する道筋以外の道筋を否定したくなってしまいます。確かに、世界には沢山の宗教があり、神の種類も多いでしょう。キリスト教の神様を好かない文化、文明もあると思います。でも、どの宗教においても、神様っていうのは、ミステリアスで、人間の知性では捉えられない存在です。「これが本当の神だ」なんて、そもそも人間の立場から証明できるものじゃありません。もし、証明できるとしても、その根拠や証拠になっているのは、結局、人の作った作品や道筋なのだから、そこに論理的であり、また信仰的な正しさはありません。

だから、私たちは、そろそろ「宗教を信じる」という表現を改めるべきですよね。私たちは誰しも宗教を信じているわけじゃありません。むしろ、信じちゃいけません。私たちが信じるべきは神様お独りだけです。この方は、あらゆる宗教が姿形を変え、語り方を変えて、伝承し、証しし続けている神様です。宗教によって、神様の姿、形は異なるでしょう。別にそれでも良いのです。宗教によって語り方は違うでしょう。正典が違うでしょう。それでも良いのです。そういう人の知性や感性によって捉えられる水準の「違い」は、本当にどうでも良い。大事なのは、そうした表面的な見た目、聞こえ方、手触りの先にいらっしゃる、私たちの理性と想像を超えた、理屈と正義を超えた神様です。どんな信仰でも、どんな宗教でも、それぞれの作品、それぞれの道筋によって証しされている、ただお独りである神様。その方を、それぞれの方法で共に仰ぎ見ることで始まる一致や

団結って、きっとあるんじゃないでしょうか。

いつか、神様御自身が、そのような一致や団結を実現してくださると私は信じています。人同士では、どうしても、正しさが求められ、それぞれの正義が優先されてしまいます。しかし、ただお独りの神様なら、「慈しみとまことは出会い、正義と平和が口づけ」をするという未来を叶えてくださるでしょう。「正義と平和」が、争いなく、衝突なく、誰もが納得して、誰もが我慢することなく、両立する未来です。それは、人間には無理かも知れません。でも、神様にはできるはずだ、という祈りを忘れないでいたいと思います。

「主は必ず良いものをお与えになり、わたしたちの地は実りをもたらします」。戦争が無くならない、差別が消えない、経済格差が痛々しい、正義が暴走し、叩き叩かれ、卑屈な感情と諦めが支配するような、そんな私たちの生きる世界。正しさを求めるからこそ生まれる悲しみや憎しみ。平和でありたいと願うことで流される血と涙。このどうしようもない世界を、きっと良いもので満たしてくださる神様がいてくださるんだと。この地を様々な実りでいっぱいにしてくださる神様がいるんだと。それぞれの信仰によって、それぞれの言葉によって、それぞれの仕来りや規律によって、祈り求めて参りたいと思います。先週も言いましたけど、何も信じるものがなく、期待せず、ただ現実に迎合だけしていても、向上は望めないですからね。現実よりさらに下に落ちて行くだけですから、私たちは、誰が何と言おうと、天にある神の国に心を向けて、視線を合わせて、平和の使者として、この世界でキリスト者として歩んで参りましょう。来年こそ、世界が平和になりますように。人の思惑を超えた正義が実現されますように。神様が、正義と平和を美しく繋げてくださいますように。最後にお祈りを致します。

神様。今日、私たちは 2024 年最後の礼拝を、このように整えられた空間でお捧げしています。今日も、私たちを礼拝堂に招いて下さり、感謝致します。私たちが、このようにして過ごし、味う

ことのできている、平穏と恵みとを、どうか世界中の人々に行き渡らせ、今がどのような状態であったとしても、遍く期待と希望を見上げながら、それぞれの新年を迎えることができますように。あなたの限りない愛と慈しみで、この世界を包み癒してください。私たちは、小さな声と小さな手を用いて、祈り、奉仕することを続けて参りたいと思います。どうか、あなたが、その小さく僅かな働きを祝福で満たし、大きな力へと変えて十分に用いてください。素晴らしい 2025 年とするために、私たち一人ひとりの働きが活かされ、隣の誰かを励まし、支えることができますように。あなたによる正義と平和が実現した未来に心を向けつつ、それぞれの場所で、自らの働きを誠実に続けることができますように。お支えお導きください。このお祈りを我らの主イエス・キリストの御名前によって、あなたの御前にお捧げ致します。

1月召天者を憶える祈り

聖書：ヨハネによる福音書14章1～4節

「心を騒がせるな。神を信じなさい。そして、わたしをも信じなさい。わたしの父の家には住む所がたくさんある。もしなければ、あなたがたのために場所を用意しに行くと言ったであろうか。行ってあなたがたのために場所を用意したら、戻って来て、あなたがたをわたしのもとに迎える。こうして、わたしのいる所に、あなたがたもいることになる。わたしがどこへ行くのか、その道をあなたがたは知っている。」

笹本きく　ささもと　きく　姉　（2011年1月 7日召天）

児玉栄美子 こだま　えみこ　姉　（2013年1月 7日召天）

中溝嘉伊蔵 なかみぞ　かいぞう　兄（1962年1月11日召天）

田代良枝　たしろ　よしえ　姉　（1990年1月13日召天）

柴田卓三　しばた　たくぞう　兄　（1931年1月15日召天）

口野はる代 くちの　はるよ　姉　（1971年1月20日召天）

中村裕典　なかむら　やすのり　兄　（2021年1月24日召天）

橋本靖子　はしもと　やすこ　姉　（2017年1月29日召天）

野尻まつお のじり　まつお　姉　（1931年1月30日召天）

大竹雅子　おおたけ　まさこ　姉　（2015年1月30日召天）

福井まきの ふくい　まきの　姉　（1998年1月31日召天）

神様。

私たちは今、敬愛すべき信仰の先達を憶えて祈りを合わせています。新年と到来を喜ぶ 1 月に、あなたの御許へと召された方々は、この地上にある間、祈り、働き、慰め、感謝し、あなたの語られた御言葉を聴いて、隣人を愛するという尊い業に励んで来られました。どうか、そのことをあなたが御心に留めて、相応しい祝福と恵みを注いでください。地上における労苦は、必ず天の国において報われるという真実を、どうか豊かに示してください。また、未だ、この地上にあって、あなたから頂いた、それぞれの業に励む私たちを顧みて、励ましと癒しをお与えください。天上の友に恥じることのない、信仰の歩みをこれからも為すことができますように。御支え、お導きください。天の上には永久の平安がありますように。地の上には豊かな慰めと励ましがありますように。祈り求めます。

この祈りを我らの主イエス・キリストの御名によって、あなたの御前にお捧げ致します。